

[研究会記事] 歴史地震研究会だより 2011 年 7 月～2012 年 6 月

歴史地震研究会幹事会

目次

1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2011年7月～2012年6月)と今後の予定	95
2. 第28回歴史地震研究会(2011年9月16～18日,新潟大会)関係	96
・ 第28回歴史地震研究会(2011年9月16～18日)報告	
・ 第28回歴史地震研究会総会(2011年9月16日)議事録 2010年度(2010年9月～2011年8月期)決算, 2011年度(2011年9月～2012年8月期)予算ならびに2011年度事業計画	
3. 幹事会議事録	103
・ 2010年度第4回歴史地震研究会幹事会(2011年8月29日)議事録	
・ 2011年度第1回歴史地震研究会幹事会(2011年11月16日)議事録	
・ 2011年度第2回歴史地震研究会幹事会(2012年2月13日)議事録	
・ 2011年度第3回歴史地震研究会幹事会(2012年6月4日)議事録	
4. 第29回歴史地震研究会(2012年9月14～16日,横浜大会)関係	111
・ 第29回歴史地震研究会(2012年9月14～16日)講演申し込み案内	
・ 第29回歴史地震研究会(2012年9月14～16日)のプログラム等	
5. 各種お知らせ・資料	116
・ 『歴史地震』原稿募集のお知らせ	
・ 歴史地震研究会会誌編集規程(2009年7月23日改定)	
・ 歴代研究会開催地一覧	
・ 歴史地震研究会への入会手続きのご案内	
・ 歴史地震研究会会則	
・ 歴史地震研究会役員および委員名簿(2012年7月1日現在)	

1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2011年7月～2012年6月)と今後の予定

2011年

- 8月29日(月) 2010年度第4回歴史地震研究会幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月16日(金)～18日(日) 第28回歴史地震研究会(新潟市 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」)
 - 16日 研究発表会,総会
 - 17日 研究発表会,公開シンポジウム,懇親会
 - 18日 巡検
- 11月16日(水) 2011年度第1回幹事会(地震予知総合研究振興会)

2012年

- 2月13日(月) 2011年度第2回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 6月4日(月) 2011年度第3回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 7月30日(月) 2011年度第4回幹事会(地震予知総合研究振興会) = 予定
- 9月14日(金)～16日(日) 第29回歴史地震研究会(横浜市 横浜開港資料館他) = 予定

2. 第28回歴史地震研究会(2011年9月16~18日,新潟大会)関係

第28回歴史地震研究会(2011年9月16~18日)報告

新潟市,新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」にて9月16日(金)から17日(土)の日程で研究発表会・公開シンポジウムを実施するとともに,翌18日(日)には名立崩れ跡等への巡検を行いました.研究発表会には,例年を大きく超える112名(うち非会員37名)もの参加があり,38件(口頭31件,ポスター7件,2件のキャンセルは含まず)の発表が行われました.また,2日目夕刻に懇親会が開催されました.

会場: 新潟市 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」

日程: 2011年 9月16日(金) 終日 研究発表会,夕刻 総会
9月17日(土) 午前 研究発表会,午後 公開シンポジウム,夕刻 懇親会
9月18日(日) 巡検(名立崩れ跡等)

プログラム

9月16日(金)

I 歴史地震全般(10:00 12:00)座長:林能成・西山昭仁

1. 中西一郎: 小川琢治博士の地震調査フィールドノート:1909年姉川地震,1923年関東地震,1936年河内大和地震
2. 植村善博: ニュージーランド,1931年ホークスベイ地震におけるヘイスティングスの被害と復興
3. 加藤祐三: 八重山地震津波での性別死亡比と全死亡率との関係
4. 石橋克彦: 古代・中世地震史料データベース構築において実在が否定ないし疑問視された地震(序報)
5. 武村雅之: 震災予防調査会報告100号の今日的意義
6. 松浦律子・松田時彦・津村建四朗: 歴史地震研究で重要な「問い続ける態度」-今村明恒の功罪からの教訓-
7. 木村玲欧・田村圭子・井ノ口宗成: 新学習指導要領「生きる力」に対応するための歴史地震学習のあり方
8. 樋口茂生: 近世~現代生成層-震災との関連で-

II ポスター発表(13:00 14:00)

9. 原田智也・佐竹健治: 日本海溝北部~千島海溝沿いで1913~1950年に発生した(巨)大地震の時空間分布
10. 林能成: 歴史災害の教訓はいかされたのか?~2011年東北地方大津波の聞き取り調査から~
11. 武村雅之: 仙台平野の津波調査あれこれ
12. 都司嘉宣: 安政江戸地震(1855)による寺院倒壊被害分布
13. 金幸隆: 関東地震のタイプ分けと再来間隔に関する研究の整理(2):地形の形成年代に関して
14. 藤原治・矢田俊文・宍倉正展: 絵図の比較から見た宝永地震前後での静岡県牧之原市における海岸線の変化
15. 小松原琢: 近江盆地南部の活構造と元暦二年地震の起震断層に関する考察

III 関東の地震(14:00 15:15)座長:宍倉正展

16. 石辺岳男・岡村眞・佐竹健治・島崎邦彦(発表者)・須貝俊彦・千葉崇・松岡裕美・藤原治: 三浦半島小網代湾内でのジオスライサー掘削で得られた津波堆積物
17. 村岸純: 1703年元禄関東地震による被災地域の生活環境の変化
18. 吉田律人: 関東大震災と全国規模の軍事動員 新潟県駐屯部隊の視点から
19. 中西一郎: 1923年関東地震直後の京都帝国大学の活動:京都大学に残る記録(2)

20. 石辺岳男・佐竹健治・島崎邦彦・室谷智子・西山昭仁：1885年以降の「M7級首都直下地震」の類型化

IV 越後の地震(15:15 16:00)座長: 卜部厚志

21. 古川信雄：震源再決定による1964年新潟地震の断層面推定

22. 河内一男：越後の古代図に見る津波記録の検証

23. 羽鳥徳太郎：新潟県～石川県沿岸の津波累積エネルギー分布

V 南海トラフの地震(16:15 17:45)座長: 行谷佑一

24. 都司嘉宣・小網汪世：明応東海地震(1498)による、駿河湾沿岸の津波被害

25. 松崎伸一・川崎真治・荻山和樹・西谷淳・土屋悟：『玄與日記』が記す「かみの關」地点とはどこか(1596年豊後地震)

26. 中村操・松浦律子：宝永地震翌朝の駿河の地震について

27. 齊藤剛彦・三神厚：南海地震の証言に基づく震源特性の検証

28. 井若和久・上月康則・山中亮一・村上仁士：徳島県における地震・津波碑の活用について

29. 三神厚・辻野早季子：1946年昭和南海地震による高知市の河川堤防被害とその要因

歴史地震研究会総会(18:00 19:00)

9月17日(土)

VI 東北の地震・噴火(8:30 10:00)座長: 松浦律子

30. 平川一臣・西川由香・吉岡祥一・中村衛：新発見、過去6000年間の三陸超巨大古津波履歴を示す二つの露頭

31. 神田克久・武村雅之：東北地方太平洋沖地震と歴史地震の震度インバージョン解析

32. 行谷佑一・佐竹健治・藤井雄士郎・山木滋：西暦869年貞観地震津波と2011年地震津波の波源の比較

33. 伊野忠昭：1896年(明治29年)三陸地震津波災害と復興 青森県三沢市の例

34. 林信太郎：鳥海山1801年噴火史料の再検討

VII 京都・近江の地震(10:15—11:00)座長: 小松原琢

35. 川崎 朗・高橋昌明・北原糸子・岡田篤正・鈴木祥之・中西 郎・石橋克彦：京都御所の泉殿と地震殿の現地調査報告

36. 石橋克彦：歴史地震の京都有感記録に対する注意点の興味深い実例 - 花園上皇による地震動の考察

37. 西山昭仁：近世京都における地震災害の特徴

VIII 特別講演(11:00 11:30)

38. 宇佐美龍夫：歴史地震について(遺言にかえて)

公開シンポジウム(13:30 17:00)

「歴史地震から防災を考える - 東日本大震災を踏まえて -」司会 武村雅之(小堀鐸二研究所)

13:30-13:40 あいさつ

13:40-14:20 穴倉正展(産業総合技術研究所)「貞観津波と東北地方太平洋沖地震」

14:20-14:50 松浦律子(地震予知総合研究振興会)「日本海沿岸での過去の津波災害」

14:50-15:10 (休憩)

15:10-15:40 矢田俊文(新潟大学)「明応地震の津波被害と高田地震の地盤災害」

15:40-16:20 卜部厚志(新潟大学)「新潟地震の液状化と中越地震の地盤災害」

16:20-16:30 (休憩)

16:30-17:00 総合討論

懇親会(18:00～) チサンホテル新潟

9月18日(日)

8:30-16:30 巡検(名立崩れ跡など見学)

第28回歴史地震研究会 総会議事録

日時: 2011年9月16日(金)18:00~19:00

場所: 新潟大学駅南キャンパスときめいと

1. 定足数確認

40名在席、定足数23人を越えているので成立(松浦)

2. 北原会長挨拶

無事大会1日目の研究発表を終了しました。参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

3. 議長選出

立候補する人はいませんか?いないようですので、幹事会より津村先生にお願いします。

4. 対外的活動の報告(小松原)

- (1)東北地方太平洋沖地震に関連して貞観地震津波ほか過去の歴史地震津波に関する研究について関係会員が社会に向けて情報を発信した。
- (2)東北地方太平洋沖地震で被災した大船渡市(2006年大会開催地)を北原会長が訪問し義捐金(研究会名義)を市役所関係者に手渡した。
- (3)日本災害史事典の執筆に歴史地震研究会会員が協力している。
- (4)内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」に歴史地震研究会会員が協力している。同調査会では「災害史に学ぶ」(4分冊)を作成した。
- (5)スタンフォード大学より会誌定期寄贈依頼を受け承認。手続きが完了。
- (6)活断層学会天正地震シンポジウムに松浦が参加・講演

議長: ご質問はありますか?

- ・義捐金はいくら渡したのですか?
 - A. 会長の個人的な好意による寄付で研究会からの拠出ではありません。(武村)
- ・東北地方太平洋沖地震に関するの情報発信の内容は?
 - A. ウェブサイト上で被災者への弔意と歴史地震研究の意義について会長を中心としてまとめた一文を掲載しています。(林)
- ・災害教訓の継承に関する委員会製作の「災害史に学ぶ」は同委員会でもとめてきた研究報告書を、一般向けに分かりやすく簡明にまとめなおし、海溝型地震、内陸直下型地震、火山噴火、風水害の4災害種ごとに冊子としたものです。製作にあたって会員の皆様にはいろいろご協力いただいた。改めて感謝申し上げます。(伊藤和明会員)
- ・明日の公開シンポの来場者には自由に持って行ってもらえるように用意してきている。会員の皆様のなかでもご興味のある人には配布します。普及版として専門外の方が読むことを意識して書いたものなので、もし難しい箇所があったらご教示してきてほしい(北原)

5. 総務委員会報告(小松原)

今年度は4回の幹事会を開催し、会運営方針を議論したほか、諸種の手続きを行った。幹事会の主な議題を列挙する。

- ・第28回、29回大会の方針(当年度行事委員会および全員)

- ・ 会誌「歴史地震」の編集(編集幹事)
- ・ 会計状況と行事等予算の確認(財政委員会)
- ・ 広報活動(広報委員会)
- ・ 入退会承認・会誌無償送付依頼および会誌送付辞退の承認(全員)
- ・ 東北日本太平洋沖地震被災者各位へのお見舞いとメッセージの発信等(会長・全員)

議長：質問はありませんか？ 質問などないので、行事委員会報告にうつります。

6. 行事委員会報告(矢田)

以下の概要で、第28回歴史地震研究発表会・シンポジウムならびに巡検の開催準備を行った。

共催：歴史地震研究会・新潟大学 ・後援：日本地震学会

会場：新潟大学駅南キャンパスときめいと

日程：2011年9月16(金)～18日(日)

(16日：研究発表会・総会 / 17日：研究発表会・公開シンポジウム・懇親会 / 18日：巡検)

同時開催「新潟大学附属図書館 企画展示 歴史地震を考える-過去からのメッセージ-」

新潟大学附属図書館の主催により、9月6日から10月31日まで新潟大学駅南キャンパスときめいとにて展示する。

議長：質問はありませんか？

- ・ 質問なし
- ・ 今日の出席者は91名と盛会になっています。明日の公開シンポにも多くの方が来られそうです。一般市民優先のため、若手会員は立ち見することになるかもしれないが、宜しくお願いします。(矢田)

7. 編集委員会報告(松浦)

歴史地震26号を450部発行した。論説4編、資料2編、報告2編と、第26回大会の講演要旨30そのほかを掲載し、159頁、口絵3頁、目次3頁である。今号より表紙に会の英語名を追加した。会員が漸増しているため、会誌の残部が少なくなっている。

議長：質問はありませんか？ 質問などないので、広報委員会報告にうつります。

8. 広報委員会報告(林)

広報委員会ではメーリングリスト musha および学会ホームページを通じた迅速な情報提供を進めた。大会への発表募集の案内や、公開シンポジウムについての告知については日本地震学会ニュースレター・日本第四紀学会ニュースレターにも掲載し広く周知した。

議長：質問はありませんか？ 質問などないので、次いで2010～2011年度決算報告にうつります。

9. 決算報告(諸井)

資料6-1 2010-2011年度 決算報告

歴史地震研究会 2010-2011年度 決算報告

	項目	予算額	決算額	増減	内訳
収入	2010-2011年度会費	645,000	519,000	-126,000	173名×3000円
	2010-2011年度以前会費(未払い者)	0	15,000	15,000	
	会誌バックナンバー売り上げ	0	4,000	4,000	会誌1, 予稿集2
	会誌口絵代	0	132,000	132,000	22000×6ページ
	銀行利息	0	27	27	
	前年度繰越	1,288,127	1,288,127	0	
	合計	1,933,127	1,958,154	25,027	

支出	東京大会補填	50,000	56,629	6,629	
	新潟大会準備費	100,000	61,620	-38,380	新潟大会会場費
	歴史地震26号印刷代	382,500	451,437	68,937	450部,送料・振込料込
	会誌送付代	80,000	0	-80,000	
	HP管理費	12,000	12,210	210	振込料込
	会議費	100,000	141,020	41,020	
	雑費(通信費・消耗品費など)	60,000	12,710	-47,290	
	合計	784,500	735,626	-48,874	

次年度繰越金	1,148,627	1,222,528	73,901
--------	-----------	-----------	--------

資料6-2 2010年東京大会収支報告

2010年東京大会 収支

	項目	金額	内訳
収入	参加費(会員)	59,000	1000円×59名
	参加費(非会員)	32,000	2000円×16名
	懇親会会費(一般)	152,000	4000円×38名
	懇親会会費(学生)	2,000	2000円×1名
	予稿集代	1,000	1000円×1部
	歴史地震研究会より補填	56,629	
	合計	302,629	

支出	予稿集印刷代	42,000	90部,消費税,振込料420円込
	講師謝金	40,210	20000円×2名,振込料210円込
	懇親会代金	164,814	参加人数43名,消費税込
	アルバイト代	45,000	9000円×2.5日×2名
	名札代	6,888	名札ケース70個,ラベル,シール
	お菓子代・お茶代	3,112	講師お菓子代・お茶代ほか
	書類送付代	500	
	振込代	105	
	合計	302,629	

説明：予算は215名の会員からの会費納入を見込んで組んだが、会費納入者は173名で、その分は収入が少なくなっているがカラーページ代などの収入があり、収入は予算と決算がほぼ同額となった。今年度の会誌印刷費には会誌の送付代が含まれているので、両者を合わせた決算額は予算額を下回り、予算の範囲内でできています。

10. 監査報告(永井監査役)

中村監査役と通帳・証書・収支簿などを監査しました。その結果、各書類とも正しく記録され、適正に会計処理がなされていることを確認しました。現在の状況では会員 200 名の会誌費・送料など 70 万円近い費用が毎年定常的に発生しています。今のペースで収支を計算すれば、20 年程度にわたって繰越金でやりくりできると想定できます。よって現状では特に問題はありませんが、会費は今後とも大切に使って欲しいと思いました。

議長：質問はありませんか？

・会費納入者が会員数より少ないということは、会費を支払っていない人がいるということですか？

A. この決算は今年 9 月 1 日時点のもので、今年度分の会費をまだ支払っていない会員もいます。

毎年 9 月以降に会費を払う会員もいるので、話は単純ではありません。昨年の実績では 85% の会員が会費を払っています。9 月 1 日の段階では 115 名の会員と 17 名の新会員が会費を払っており、総計で 65% の会員が会費を払っています。必ずしも今の段階で会費を払っていない人がこれから払わないとは限らないので、記載が難しいという実情があります。

議長：1 号議案について承認の方は拍手をお願いします。

・拍手多数。

11. 役員人事

総務幹事：幹事会には立候補の届け出はありませんでした。幹事会より武村現副会長を 2011~2012 年度会長として推薦します。

議長：ただいまの推薦により武村さんを新会長に選出することになりました。承認される方は拍手をもって承認をお願いします。

拍手多数。

議長：よって 2011~2012 年度の会長は武村さんをお願いすることになりました。次に 3 号議案の監査役人事にうつります。

3 号議案

総務幹事：2011~2012 年度監査役として永井九一会員・中村操会員を推薦します。

議長：新年度監査役として永井会員・中村操会員に留任していただくという提案に対して賛成される方は拍手をお願いします。

拍手多数。

議長：よって 2011~2012 年度の監査役は永井会員と中村操会員をお願いすることになりました。

ここで新会長の挨拶をお願いします。

武村新会長の挨拶

北原前会長の路線を引き継ぎ、会の運営に尽力していきます。過去の歴史や地震をしっかりと調べ、事実をはっきり突き詰めていくことが 3 月 11 日の地震の重要な教訓だと私は思います。このことは歴史地震研究会のなすべき使命です。今の歴史地震研究会は会員が増えている稀有の学会組織です。理系・文系が一緒にやっているのがこの研究会の特徴です。また一方でお願いしたいことがあります。できる限り役員が固定化しないよう、みなさんに仕事を分担してもらっていきましょうお願いします。今後に向けてどうか宜しくお願いします。続いて幹事を任命します。副会長には松浦律子さん、編集幹事には松浦さんに代わって千葉大学の金田平太郎さん、総務幹事には小松原琢さん、広報幹事には林能成さん、財政幹事には諸井孝史さん、行事幹事に吉田律人さんをお願いします。各幹事のみなさんは前に出て一言お願いします。各幹事から挨拶。

12. 2012 年度大会について(吉田)

2012 年度大会は、9 月 14 日(金)~16 日(日)に、横浜市内において開催します。

13. 入退会者報告(諸井)

まず入退会者を報告します。昨年度の会員は215名でしたが、今年度は19名の方が新規に入会、一方で2名の方が退会され、計17名増加し、現段階で層会員数232名となりました。

14. 2011～2012年度予算報告(諸井)

資料8 2011-12年度予算案

歴史地震研究会 2011-2012年度 予算案

	項目	予算額	内訳
収入	会費	690,000	230名×3000円
	前年度繰越	1,222,528	
	合計	1,912,528	
支出	会誌印刷費(歴史地震27号)	472,500	(1050円×450部),送料込み
	HP管理費	12,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	60,000	
	会議費	100,000	
	新潟大会補填	100,000	
	次回大会準備費	10,000	
	合計	754,500	
次年度繰越金		1,158,028	

予算として収入は230人の会員から納入されるものとして計上しています。支出について特にこれまでと異なる点として、会誌の印刷費は会誌送料と合わせて計上しています。

議長：ただいまの予算案に関してご質問はありませんか？

質問などなし

議長：質問などないようですので、予算案を承認する人は拍手で承認をお願いします。

承認多数ということで2011～2012年度予算案は承認されました。

15. その他

議長：以上で総会の審議すべき事項の審議は終わりましたが、追加して報告や意見はありませんか？

松浦副会長：学術団体DBで検索できるようになったことを報告します。

武村会長：永年本会を率いてこられた山下文男会員の現況についてご報告いたします。山下さんは陸前高田市の病院に入院中に被災され、現在は盛岡に入院しています。研究会の会員はこれからも続けるので、どうか宜しくお願いしますとのことでした。最後に北原前会長から一言いただきたいです。

北原前会長挨拶：私はずっと歴史地震研究会にはよそ者のつもりで参加してきました。会長を引き受けるにあたって、自分はこの会を歴史・人文系の人と一緒に研究できるようにしていきたいと考えていました。こうした活動は他の学会ではできないことなので、人文系の人に特に声をかけてきました。その結果歴史系・人文系の方が入ってきてくれるようになりました。明るい新会長に、今後よろしく願いしたいです。

武村会長挨拶：前会長の路線を引き継いで人文系の人が入れるように努力していきます。

以上をもって本日の総会を終了いたします。

3. 幹事会議事録

2010年度第4回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時：2011年8月29日(金)16:00～18:30

場所：地震予知総合研究振興会会議室

出席者：北原・武村・諸井・林・松浦・矢田・卜部・宍倉・吉田・小松原

議事

1. 横浜市史資料室の吉田律人さんの紹介

2. 新潟大会の準備状況の最終確認

2-1 研究発表会準備

- ・ 前日準備は不要・ポスターボード12枚を事前に用意する
- ・ 9時に院生アルバイト2名が集合
- ・ 前泊する関係者は8時半(ときめいとが開く時間)に間に合うように。それ以外は9時着の列車で到着して準備を始める。
- ・ 研究発表会2日目は発表開始8時半だがときめいとの会館利用開始時間と開演時間を確認すること、院生アルバイトは9時集合。
- ・ 大会最初の挨拶で北原会長が黙祷を求める
- ・ 大会受付は午前中に一段落ついたら引きあげる
- ・ 参加費徴収について宍倉さんが参加費領収証を作成

2-2 巡検

- ・ 巡検参加費は40人、1人当たり参加費6000円とする。(北原・武村・諸井の3名を加える)
- ・ 8時半出発、食事はマリンドーム能生で食事、巡検の時間配分については事前に伝える。
- ・ バスを卜部さんがパジェロで追いかける。

2-3 懇親会

- ・ 懇親会参加希望者は48人に。
- ・ 宮下副所長(新潟大学災害・復興科学研究所)を懇親会に招待する
- ・ 乾杯は武村さんから宇佐美先生に打診；スピーチは：最初武村さん・宮下先生・あとは松浦さんが適当に声をかけ、中段で矢田先生・吉田研究員にお願い、締めは北原さん。

2-4 公開シンポジウム

- ・ 武村さんが開会にあたって経緯を簡単に説明する。
- ・ 公開シンポジウム開催にあたって宮下副所長(新潟大学災害・復興科学研究所)が挨拶する。

2-5 そのほか

- ・ 公開シンポジウムの「日本海沿岸での過去の津波災害」に関して、天正地震の津波かどうかという問い合わせが来た。
- ・ 予稿集が欲しいという問い合わせが来ているが、事前販売はしていないことを問い合わせ者に返答する(宍倉さん)

3. 総会準備

3-1 会計報告・会計監査について

- ・ 会計監査を永井さんと中村さんをお願いする。了解を頂いたら幹事会に連絡する(諸井さん)。
- ・ 次年度予算では会誌印刷費と会誌送付代を同一予算項目として計上する。1冊あたり計1050円が適当。
- ・ 会費未納者への対応について：次年度には会費連続未納者をリストアップして、未納者への支払い督促と退会するか否かの問い合わせを行う。

3-2 活動報告資料

- ・ 各委員会で内容を検討し、9月13日ごろまでに小松原に通知する
- ・ 対外的活動の報告に「災害教訓の継承に関する専門委員会」で災害種別に内容をまとめた本(「災害史に学ぶ」4分冊)を作成したことを加える。この本について北原さんから内閣府に配本を打診し、ト部さんから新潟大学宛の寄贈を依頼する。

3-3 山下文男さんの現状について総会で簡単にお知らせする。

4. 入退会者承認

退会：塩井宏幸様

入会：馬場俊孝様・城前喜英様・笠原 稔様・司 宏俊様・白石健一様・高山信紀様

全員承認

5. 2012年大会(横浜大会)について

5-1 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団の紹介

5-2 開催計画について

- ・ 9月14~16日の日程を組んでいる。会場確保は大丈夫
- ・ 共催者として、横浜市消防局・横浜開港資料館・横浜都市発展記念館および横浜市開港記念会館の所在地である横浜市中区を加える予定。
- ・ 各施設(横浜開港資料館・横浜市史資料室・横浜都市発展記念館)で1人ずつ担当者を決め、担当者間で協議しつつ進めていく予定。
- ・ ポスター発表のスペースがないので口頭発表だけにする。
- ・ 横浜開港資料館にある史料を見ること自体に意味がある。公開シンポジウムは横浜市開港記念会館を利用して公開講演会を開催したい
- ・ 懇親会と総会の日程をどうするか 1日目に懇親会・2日目に総会としたほうが良い。
- ・ 巡検は関内地区を歩いて回る
- ・ 公開講演会に巡検を組み合わせるとどうかについて検討したが、研究会会員以外の人を含めて大人数で回ることが難しいことを考慮して別々に開催する方向に。
- ・ 数人からなる行事委員会を組織して対応する。

2011年度第1回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時：2011年11月16日(水)17:00~19:00

場所：地震予知総合研究振興会会議室

出席者：武村・松浦・諸井・林・金田・吉田・小松原

議事

1. 新潟大会の反省

予想を超える参加者が来場、予稿集を現場で増刷・後に再度印刷してすることになった。

収支報告：会員 75 名、非会員 37 名が参加、例年と比較して非会員の参加者が非常に多かった。収支はほぼ均衡。

2. 会費長期滞納者への対応

どのくらいの人が長期滞納しているかどうか確認する（諸井）

3. 会誌編集について

- ・ 会誌の寄稿先がわかりづらいという意見が寄せられている。これに対応するため、HP に寄稿先が分かるような文章を掲載する（金田・林）
- ・ 新潟大会における宇佐美先生の提案を受け新発見の地震史料を掲載するジャンルを作るべきかどうか、議論した。「資料」というジャンルがある。これを受け皿にすれば良い。最近では 26 号の石橋論文や宇佐美他訂正の例がある。新史料であることが確かで、史料解題があれば受け付け、査読の上掲載するという方針で臨みたい。横書きとするか縦書きとするか？歴史系の人にとっては横書きには抵抗感がある。一方、横書きでフォーマットをそろえることにはメリットがある。これをどうするか？最低限タイトルなどは横書きで、要望がある人は個人的に縦書き希望の旨を伝えれば編集委員会で対応する。などの意見が出た。最終的には、新史料の発見については「資料」のジャンルに寄稿するよう呼びかける。新史料を見つけた人から先鞭をつけて寄稿してもらうように依頼する。武村会長が宇佐美先生宛てに対応について協議したことを伝える。

4. 横浜大会について

吉田行事幹事作成の企画案について議論した。

- ・ 期日は 9 月 14 日～16 日で確定。
- ・ 研究発表会は横浜開港資料館講堂で、公開講演会は横浜市開港記念会館で実施する。
- ・ 共催相手は予定・後援名義使用先は決めている。
- ・ 吉田行事幹事のほか、馬場会員に行事委員になってもらいプログラム編成と予稿集作成を担当分担して行事運営を進める。
- ・ 横浜開港資料館の松本洋幸調査研究員を交えて 2011 年 10 月 5 日に第 1 回担当者会議を実施、施設利用・巡見案・シンポジウム案等について協議した。
- ・ 研究発表の申し込み及び予稿原稿の集約は歴史地震研究会、会場・巡見・シンポジウムの運営は横浜市ふるさと歴史財団側も協力する。
- ・ 研究発表会場(横浜市開港資料館)は 9 時 30 分開場、16 時 50 分閉館。会場使用料は 1 人あたり 1 人当たり 400 円。これには企画展・常設展を見学できるメリットが含まれている。
- ・ 会場使用料は大会参加費の一部として参加者から徴収する。
- ・ 横浜市開港記念館は共催とすると会場使用料減免可。中区役所に共催申請をする。1 日単位で貸し出しているので午前午後とも確保する。
- ・ 巡検について：歩く距離は関内一周程度、所要時間は 2～3 時間を見込んでいる。
- ・ ガイドは何人頼めるか？10 人の参加者に 1 人程度、合計 30 人で 3 班という編成でどうか。
- ・ 所要時間や解説のノウハウなどは横浜都市発展記念館が持っている。
- ・ 懇親会の会場は行事幹事に任せる。
- ・ 行事委員会が講演申し込み募集のはがきを作成する。はがきの文案は宍倉前行事委員作成のものを参考とすれば良い。
- ・ 近現代歴史資料課の 4～5 人程度より講演したいという希望が寄せられている。招待講演という形で 1 セッションにまとめて発表していただくことに。
- ・ ポスター・リーフレット作成にかかるデザイナー謝金などはこれまでの大会では予算化していない。ポスターの製作にお金をかけることはできないが部数が限られていれば研究会で刷ればよい。

- ・ アルバイトについて：横浜市立大学；横浜国立大学にお願いすることは可能（松浦副会長からお願いできる）。2人で可。
- ・ 問題点に関する議論： 研究発表会の会場でポスター発表できないとなると時間配分が難しい。また閉館時間に間に合わせようとする総会が開催できなくなる。ポスター発表はできないか、発表用設備はあるか、閉館時間を遅らせられないかなど、再度交渉する(吉田)。昼食の場所、閉館時間を遅らせることができない場合の総会用会議室の確保についても吉田さんにお願いする。行事関係者間での情報交換や発表申し込み受け付け用にメーリングリストを作る(吉田)。馬場さんには cmusha に入ってもらおう(林) 共催・後援などは行事委員会で交渉し、文書の発行は総務幹事が行う。
- ・ 公開シンポジウム：シンポジウムに防災の話を入れる必要があるのか？討論の議題がまとまらなくなる恐れがある。講演者は3人の方が良いのでは？映像主体のシンポでも良いのではないのか？等の意見が出た。防災の話については開港資料館等の都合があれば、それを考慮すればよい。横浜の関東大震災については知られていない面が多いので、それに話を集約しても良いのではないのか。議論の結果、以下の方針が固められた。武村・大西・平野の3氏に講演を依頼する。館長には討論に参加してもらおう。非会員の講演者には謝礼を出す。討論の司会は神奈川県立歴史博物館の寺崎氏にお願いする。

5. 2013年大会

秋田で行うことに決定。(武村会長から林氏に伝える)

6. 後援名義使用許可申請について

2月3日震災予防講演会(横浜)から歴史地震研究会に後援名義使用許可申請が出されていることについて 承認する。

7. 入退会者報告・承認

足立長門さん、柳澤和明さん、竹村考弘さん、水田敏彦さん、齊藤剛彦さん、の5名の入会を承認。

8. 学術団体の代表交代

学術団体の代表者が交代した場合にはその旨届け出ることになっている。(松浦副会長が手続きを行う)

9. 監査について

監査役は会計の監査だけでなく、幹事会の活動全体の監査も必要とされているのではないかという意見が中村操氏から提案されている。

幹事会に出ただき、監査の立場から意見を言ってもらおう。中村操氏を cmusha に入れ、永井氏には小松原から声を掛ける。

10. 会誌の寄贈先の管理について

会誌の寄贈先はかつて総務幹事が管理していたが、今は編集幹事が管理している。今年度の新幹事(金田氏)に引き継いでいる。

11. 総会議事録

既にHPにアップしている。

12. 次回幹事会の日程について

2月13日(月曜)17:00～ 地震予知総合研究振興会会議室で行う。

2011年度第2回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時: 2012年2月13日(月)17:00～19:00

場所: 地震予知総合研究振興会会議室

出席者: 武村・松浦・諸井・金田・吉田・林・中村・永井・小松原

議事

1. 横浜大会企画案

- ・2011年11月17日開催の担当者会議で話し合われたこと
- 1) 総会会場について: 横浜開港資料館講堂を18時まで使用する許可を得たので, 9月15日(2日目)の研究発表会後にそのまま講堂で総会を開催する。
- 2) ポスター発表会場について: 都市発展記念館1階のフリースペースをポスター会場として確保した。
- 3) 懇親会について: 旧横浜商工奨励館の「LUNCH AVENUE」を予定。ただし予約受付が半年前から。
- 4) 巡検: シテイガイド協会と交渉した。参加者30人の場合, ガイドは3人。ガイド費用は1人あたり2500円
- 5) 飲食: 横浜市開港資料館の講堂と中庭は飲食可なので雨天時にも食事可能, 山下公園周辺にはレストランなどが多数あるので問題なし。
- 6) アルバイト: 松浦副会長経由で横国大工学部の先生に依頼する。2名×2日依頼。金曜午前中は確実に2名確保希望。公開シンポは首都圏形成史研究会にも協力していただける。
- 7) 各種申請手続き: 共催と後援の申請は3ヶ月前までに行う必要あり。どの行事項目を「共催」「後援」とするか, 吉田行事幹事が決め, 以来文書を小松原が作成し5月に提出する。
- 8) 各種イベントの責任者について
ポスター展示・懇親会・巡検・講演会に吉田行事幹事以外の歴史地震研究会幹事を出すようにとの依頼があり, 武村会長・松浦副会長は現場にいるようにする。
- 9) 公開シンポジウムについて: 首都圏形成史研究会の例会と合同開催とする。講演者は武村会長・寺寄弘康氏・ほか1名調整中。対象を横浜市だけではなく神奈川県下の震災とする方向で講演内容を検討している。
- 10) プログラムの作成について: プログラムは行事委員会で組む予定。なかなか行事委員が集まる時間を作れないのがやや難。
- 11) 今後の予定
3月に研究会幹部と現地を見する。
4月10日の地震学会NL原稿締め切りまでに講演申し込みの文案を作る。林広報幹事から馬場行事委員(cc 吉田行事幹事)に文案例を送り, 文面作成。メールの届かない人には適宜手紙で送る。

2. 第2回震災予防講演会(後援名義使用)報告

震災予防講演会は盛況だった。

3. 記事掲載報告

新潟日報・朝日新聞で武村会長の記事が掲載された。

4. 会誌の編集状況報告

今年度は6件寄稿され, うち1件取り下げ, 実質5件。現在編集作業中。例年と同じペースで進んで

いる。

5. 入退会申請

聖城雅夫氏・越後智雄氏・三神厚氏・新田康二氏・上田誠氏・高野宏康氏・相原淳一氏の7名の入会申請あり。全員申請承認。

6. 著作権の取り扱い等に関するアンケート調査について

筑波大学附属図書館より、会誌を機関リポジトリに公開しても良いかどうか等に関するアンケートが来ている。これにどう対応するか協議した。このアンケートには協力したほうが良い。出版側の事情を考慮して一定期間非公開というのが一般的。昔の論文を引用されることにより学会の知名度と会誌のサーキュレーションを高めているという他学会の事例がある。金田編集幹事が松浦副会長と協議の上、アンケートに回答する。

7. 会費長期滞納者対応

2回以上未払いの会員および25号以前の号について未払いの会員には督促状を出す。督促状を出す前に幹事が知っている人に打診する。なお1号あたりの代金は3000円。

8. 慶弔事の対応

訃報・弔辞については特別な規定を設けず、一番良く知っている人に依頼して書いてもらう。山下会員の弔辞は、金田編集幹事から北原前会長に執筆をお願いする。幹事会で名誉会員制度を作るかどうかを次回の議題とする。

9. 2006年大船渡大会における山下会員の講演記録について

大船渡大会における山下会員の公開講演会講演記録を地元新聞社が連載記事にしている。これを歴史地震の次号で掲載できないか、協議した。担当記者を小松原総務幹事(当時)が調べ、金田編集幹事が新聞社と交渉することに。

10. 入会申請書の提出先の変更について

入会申請書の提出先を北原前会長から武村現会長に改めること

次回幹事会の予定

6月4日(月)17時から地震予知総合研究振興会会議室にて行う

2011年度第3回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時: 2012年6月4日(月)17:00~19:20

場所: 地震予知総合研究振興会会議室

出席者: 武村・松浦・金田・諸井・吉田・馬場・永井・中村・小松原

議事

1. 編集委員会報告

1-1 機関リポジトリ対応

- ・筑波大学(旧図情大)より、機関リポジトリによる論文公開に関する扱いについてアンケートの回答を求められている。歴史地震研究会としてどのように対応するか?

無条件で公開を許すことは問題あり。一定の非公開期間を設けること、著者が高解像度の図面を公開すると著作権所有者との間で問題となる恐れがある。著者に学会のサイトにリンクを

張ってもらい、そこからダウンロードするように要望する方針で臨む。次回幹事会で編集幹事が規定案を提出することに。

- ・ 投稿規定を変更して総会で報告する。
- ・ 絵図など他者が著作権をもつものを高解像度の図で出すことは禁止。
- ・ 査読前のものを公開することはしない。
- ・ 権利表示・出典表示を条件につけるべきか？条件につける。
- ・ 事前の照会・事後報告は不要とする

1-2 会誌印刷の発注承認

前田印刷に見積もりをお願いしたところ、44万9千円との返答（ページ数は昨年程度、部数は昨年同様430部）。今年は480部刷る。発注承認。

1-3 編集状況報告

5編の論文(計40p)と講演要旨などをまとめる見込み。学会誌全体として発表件数は増えているが論文寄稿は減っている傾向がある。査読謝礼として会員外査読者に5000円支払った。

1-4 山下会員の追悼記事

研究会記事というジャンルで山下さんの追悼記事を掲載する。北原前会長が適切な追悼記事を書いてくれた。中村操さんが山下さんの写真を編集幹事に送り、完成させる。大船渡大会での講演記録は、既に22号に山下さんの論文として掲載されているため再録しないで、引用する。

1-5 昨年度研究会の報告

行事委員の吉田・馬場両氏が昨年度研究会の報告を執筆。武村会長が集合写真を持っている。林広報幹事が研究会の写真を持っている可能性大。以上の写真と文をまとめて昨年度の研究会報告を完成させる。

1-6 講演要旨の作成

昨年度大会の講演要旨を総務幹事が編集幹事宛に送り、講演要旨を作成。原稿のみを提出して大会に参加しなかった人の原稿は採録しない。

1-7 研究会活動の報告について

特別な記事は必要なし。金田編集幹事が作成

1-8 「お知らせ」はHPを見ない人を主対象とする。HP記載記事を中心にまとめれば良い。

1-9 会誌発送に必要な資料など

送付先リストと振り込み表は諸井財政幹事が、無償送付先リストは松浦副会長が、編集幹事にする。歴史系学会で送付するとメリットがある学会は、吉田行事委員から副会長に連絡する。以上を経て、7月上旬に印刷社に入稿予定。

2. 横浜大会準備について

2-1 公開講演会について

- ・ 1階だけを開場する。
- ・ 司会：北原前会長に依頼し了解を得る。
- ・ 北原前会長の意見として：講演者にもう一人理科系の人が必要では？ 神奈川県津波に関する

報告を松浦副会長が行う(4 つめの講演)。

- ・ 公開講演会の事前参加申し込み：7月に参加希望者に宣伝，往復はがきなどでの事前申し込みを募る．公開講演会の宣伝は新聞社を通じて行う。

2-2 研究発表会について

歴史学研究会大会にて 250 部チラシを配った．他の歴史系の学会に宣伝する．

2-3 共催・後援について

- ・ 収支予算書は諸井さんと吉田さんと協議して作成する．
- ・ 研究会所在地の件：現在は会則，HP 上などで地震研となっているが，(公財)地震予知総合研究振興会として書類を作成する．研究会所在地変更の件は今回の総会において承認を求める．

2-4 プログラム作成について

- ・ 発表者が会員か否かの確認：財政幹事より馬場行事委員に会員名簿を送り，確認する．
- ・ 発表件数の制限：口頭発表は 2 件を上限とし，それ以上についてはポスター発表に．
- ・ プログラム編成期限：6 月 9 日の地震学会 NL に掲載できるよう早急に編成する．

2-5 予講集印刷部数について

昨年度は 130 部印刷した．今年度は 150 部とする．昨年度の予講集電子ファイルを総務幹事より馬場行事委員に送る．

2-6 申し込み先の変更について

今まで使用してきた産総研のメーリングリスト rekishi-12[at-mark]m.aist.go.jp は使えなくなる．これからは地震予知総合研究振興会のサーバーを経由して行事委員会にメールを転送する yokohama[at-mark]erc.adept.or.jp に変更する．

3. 入退会申請

6 名新入会申請，全員承認．全会員数 250 名に達する．

4. 名誉会員制度等顕彰の検討

名誉会員制度の代わりに功労賞(功績賞)を作るのはどうか．そのためには選考委員会が必要．選考委員会は幹事会と独立に作る必要がある．また，新たに交通費などの経費がかかる．制度は総会で承認を受ける必要がある．活断層学会の事例を調べ(武村会長)，次回幹事会で話し合う．

5. musha の規約変更

林広報幹事からの musha の規約変更に関する以下の提案を承認した．

- 1) 1-1.主催者を運営および座長に変更．
- 2) 4.メールの配信，ただし，，，以下はあまり意味がないので削除．
- 3) 6.メンバー登録 連絡先を「座長」に変更．
なお座長の連絡先 musha-contact@maecha.net を用意し，現在は林広報幹事に転送するようになっています．
- 4) 6-1.登録更新 管理が煩雑となっているので削除
- 5) 7.メンバーリストの公開 削除
- 6) 9.変更 規約の変更権限は歴史地震研究会・幹事会がもつことに変更．これまでは合議．
- 7) 10.スポンサー 好意ではなく歴史地震研究会の正式運営となったので削除．

6. 次回日程

7月30日(月曜) 17時から 地震予知総合研究振興会会議室にて.

4. 第29回歴史地震研究会(2012年9月14~16日, 横浜大会)関係

第29回歴史地震研究会(2012年9月14~16日)講演申し込み案内

第29回歴史地震研究会開催のお知らせ(第1報)

歴史地震研究会では、9月14日(金)から16日(日)の3日間にわたって、横浜市にある横浜開港資料館ほかにて第29回歴史地震研究会大会を開催いたします。

【日程】

〔第1日〕9月14日(金) 会場：横浜開港資料館講堂

午前・午後：研究発表会第1日 / 夕方：懇親会

ポスター会場：横浜都市発展記念館

〔第2日〕9月15日(土) 会場：横浜開港資料館講堂

午前・午後：研究発表会第2日 / 夕方：総会

〔第3日〕9月16日(日) 会場：開港記念会館

午前：巡見(「横浜・関東大震災の痕跡をめぐる(仮)」関内エリアを中心に1923年関東地震の痕跡+都市発展記念館を見学)

午後：公開講演会「神奈川県のお関東大震災(仮)」

【会場所在地】

横浜開港資料館 〒231-0021 横浜市中区日本大通3

横浜都市発展記念館 〒231-0021 横浜市中区日本大通12

開港記念会館 〒231-0005 横浜市中区本町1丁目6



< 各種申し込みについて >

1. 研究発表の申し込み

電子メールまたはファックスにて発表者リスト、発表タイトル、希望発表形式（口頭・ポスター・いずれも可）をお知らせ下さい（5月末日必着）。発表形式は必ずしもご希望に沿えない場合があることをご了承願います。なお、口頭発表ではPC接続可能な液晶プロジェクタ（PCは発表者が持参願います）が使用できます。OHP、スライドプロジェクタは使用できませんのでご注意願います。

研究発表申し込みの送付先：

電子メールの場合：rekishi.11[@]m.aist.go.jp（行事委員会：吉田律人、馬場俊孝） メールを送る場合は[]をとってください。

郵送・FAXの場合：〒236-0001 神奈川県横浜市金沢区昭和町 3173-25

海洋研究開発機構 地震・津波防災研究プロジェクト 馬場俊孝 宛

FAX: 045-778-5298

2. 予稿原稿の投稿

発表1件につきA4サイズ1ページ、カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿をご用意願います。白黒印刷に配慮した作成（特に図や写真）をお願いいたします。原稿は原則としてWordファイルを電子メールでお送りください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7月末日必着といたします。

予稿原稿の送付先：研究発表申込先と同じです。

3. 懇親会・巡検の申し込み

電子メール、ファックス、郵便のいずれかにてお申し込み下さい（7月末日必着）。巡検の申込においては保険加入のため、氏名のほか住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。定員30名程度ですのでお申し込みは先着順となります。

懇親会・巡検の申し込み先：研究発表申込先と同じです。

< 参加費（予定） >

研究発表会（資料代込）：1000円程度、懇親会：5000円程度（学生割引有）、巡検：2000～3000円程度

< 注意事項 >

研究会では宿泊の手配はいたしません。会場周辺には多くのホテルがございますので、旅行会社や宿紹介サイト等をご参照いただき、各自ご予約ください。また、昼食についても会場周辺の各種レストラン等をご利用ください。（会場から横浜中華街も徒歩圏内です。）

プログラム等研究発表会の詳細は次号（7月発行）の地震学会ニュースレターと歴史地震研究会ホームページにてお知らせする予定です。

第29回歴史地震研究会(2012年9月14～16日)プログラム等

第29回歴史地震研究会（横浜大会）のお知らせ（第2報）

歴史地震研究会では、9月14日（金）～16日（日）の3日間にわたって、横浜市にある横浜開港資料館ほかにて第29回歴史地震研究会大会を開催いたします。研究発表会・懇親会・見学会への参加申し込み締め切りは7月31日（火）、公開講演会への参加申し込み締め切りは8月31日（金）です。

【主催】 歴史地震研究会

【共催】 横浜開港資料館・横浜都市発展記念館

1. 場所および日程

〔第1日〕 9月14日（金） 会場：横浜開港資料館講堂

午前・午後：研究発表会第1日/夕方：懇親会

ポスター会場：横浜都市発展記念館

〔第2日〕 9月15日（土） 会場：横浜開港資料館講堂

午前・午後：研究発表会第2日/夕方：総会

〔第3日〕 9月16日（日） 会場：横浜市開港記念会館

午前：見学会「横浜・関東大震災の痕跡をめぐる」

午後：公開講演会「神奈川の関東大震災」

会場所在地

横浜開港資料館 〒231-0021 横浜市中区日本大通3

横浜都市発展記念館 〒231-0021 横浜市中区日本大通12

横浜市開港記念会館 〒231-0005 横浜市中区本町1丁目6

2. プログラム

9月14日（金）：

9：30～ 受付開始

研究発表会・参加費（含予稿集代）：

歴史地震研究会会員1000円、非会員2000円（学生は無料）

I 津波堆積物（10：15～11：30）（*は発表者、以下同じ）

- ・ 平川一臣*・川上源太郎・田近淳・廣瀬 亘・深見浩司：日本海東縁の巨大津波履歴：北海道奥尻島の古津波堆積物
- ・ 千葉 崇*・石辺岳男・佐竹健治・島崎邦彦・須貝俊彦・西山昭仁・原田智也・今井健太郎・行谷佑一・上野俊洋：三浦半島江奈湾で採取された過去4000年間の津波堆積物
- ・ 藤原治*・青島晃・北村晃寿・佐藤善輝・小野映介・谷川晃一朗・篠原和大：元島遺跡周辺（静岡県磐田市）で見られる4世紀から中世にかけての津波堆積物
- ・ 宍倉正展*・安藤雅孝・中村 衛・涂陽子・新城安尚：石垣島における掘削調査で観察された1771年八重山津波（？）堆積物
- ・ 樋口茂生*・東将士・稲田晃・伊藤彰秀・岩本広志・上加世田聡・川崎健一・楠恵子・佐藤伸司・品田正一・末永和幸・渡邊拓美：現代生成層－人工的二次堆積物の性状と震災との関係－

（昼休み 11：30～13：00）

II ポスター発表（13：00～14：00）

- ・ 藤原治：関東地震に関連する津波堆積物の研究：現時点のレビュー
- ・ 金幸隆・熊木洋太・佐竹健治：三浦半島南部の地形調査・堆積物調査から推定された過去複数回の関東地震による上下地殻変動と津波
- ・ 佐藤善輝・藤原 治・小野映介・矢田俊文・海津正倫：浜名湖西岸の浜名川流路跡で見られる中世以降の津波堆積物
- ・ 青島晃・柴田達哉：アンケート調査による1944年東南海地震の静岡県太田川低地の液状化発生地点

- い 中西一郎・露木啓悟：安政南海地震に伴う地殻変動：高知市・南国市
- い 水田敏彦：1914年秋田仙北地震の人的被害に関する資料について
- い 白石睦弥・檜樫貢・丹野正・佐々木純一郎・野澤敬之・大山祐太：東日本大震災八戸市被災3地区の調査結果

(会場移動 14:00-14:15)

関東の地震 (14:15 - 17:00)

- い 磯田道史*：鹿島大宮司日記から新出した地震記録とその考察 元禄関東地震の地震動を中心に
- い 松浦律子*：1894年10月7日などいくつかの古い地震の震源変更
- い 萬年一剛*・五島朋子・浪川幹夫：大正関東地震による鎌倉・逗子の津波高 新資料と国土地理院数値標高モデルに基づく再検討
- い 中西一郎*：1923年関東地震直後の京都大学の活動：京都大学に残る記録(3) P波初動分布と震源
- い 松本洋幸*：関東大震災と小学校 横浜市南吉田第二尋常小学校・寿小学校を中心に

(休憩 15:30-15:45)

- い 吉田律人*：関東大震災における犠牲者のゆくえ 横浜市域の遺体処理と慰霊・追悼
- い 青木祐介*：関東大震災による煉瓦造建造物の被災状況 横浜を事例として
- い 武村雅之*：石碑が語る関東大震災
- い 羽鳥徳太郎*：2004年、2005年房総沖地震津波と歴史津波
- い 石辺岳男*・酒井慎一・島崎邦彦・佐竹健治・鶴岡弘：2011年東北地方太平洋沖地震後の南関東における地震活動と歴史地震の震源域への影響

懇親会 18:00～ 会場：横浜中華街(予定)

参加費：5000円(学生：3000円)

9月15日(土)：

越後・近江・丹後・豊後の地震 (10:15 - 11:45)

- い 河内一男*：越後の古代図に見る津波記録の検証 その2
- い 西山昭仁*：天延四年(976)京都・近江の地震における被害実態
- い 松岡祐也*：1596年豊後地震による各地の被害の再検証
- い 大邑潤三*：1927年北丹後地震における熊野郡の被害とその発生要因
- い 植村善博*：1927年北丹後地震における峰山町と網野町の復興計画
- い 新谷勝行*：丹後震災記念館の建築とその意義

(昼休み 11:45-13:15)

南海トラフの地震 (13:15 - 14:15)

- い 神田克久*：沈み込むフィリピン海プレートで発生したスラブ内の歴史地震の地震規模の評価
- い 羽鳥徳太郎*：静岡県～三重県沿岸の津波累積エネルギー分布
- い 内田篤貴*・浦谷裕明・小川典芳・中川進一郎：明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について
- い 都司嘉宣*：『谷陵記』の記載、および寺社被害史料からみた宝永地震津波(1707)による高知県での浸水状況

(休憩 14:15-14:30)

VI 北海道・東北の地震 (14:30 - 15:30)

- い 行谷佑一*・矢田俊文: 享徳三年(1454年)に奥州を襲った津波
- い 都司嘉宣*: 慶長16年(1611)三陸沖地震の発生メカニズムの考察
- い 中西一郎*: 北海道と周辺の歴史地震史料: 安永八年(1780年)得撫(ウルップ)島沖地震
- い 白石睦弥*: 八戸地域における歴史災害と支援の実態

歴史地震研究会総会 (15:45 - 17:00)

9月16日(日):

午前: 見学会「横浜・関東大震災の痕跡をめぐる」

10:00-12:00 (予定)

山下公園など関東大震災に関する横浜市内の史跡を巡る。

参加費: 1000円(保険料含む)

午後: 公開講演会「神奈川の関東大震災」(13:30-16:30)

司会 北原糸子(立命館大学)

13:00 開場

13:00 13:30 あいさつ

13:40 14:10 武村雅之(名古屋大学)「関東大震災と神奈川」

14:10 14:40 大西比呂志(フェリス女学院大学)「女学生のみた関東大震災」

14:40 14:50 (休憩)

14:50 15:20 寺崎弘康(神奈川県立歴史博物館)「浦賀町の震災対応」

15:20 15:50 松浦律子(地震予知総合研究振興会)「神奈川県の津波想定について」

15:50 16:00 (休憩)

16:00 16:30 総合討論

参加費: 無料

3. 参加申し込み

懇親会・見学会に参加をご希望の方は、7月31日(火)まで、公開講演会に参加をご希望の方は8月31日(金)までに、電子メール・手紙(公開講演会の場合は往復はがき)・FAXのいずれかでお申し込みください。申し込み先は末尾をご参照ください。

巡検の申込においては保険加入のため、氏名のほか住所・生年月日・電話番号(携帯可)をお知らせください。巡検の定員は30名、公開講演会の定員は250名で、受付は先着順となります。

4. 各種申し込み先・問い合わせ先

歴史地震研究会 行事委員会:

吉田律人(委員長)・馬場俊孝・松浦律子

電子メールの場合: yokohama@erc.adep.or.jp

手紙・FAXの場合:

〒101-0064 千代田区猿楽町1-5-1 8千代田ビル8F

地震予知総合研究振興会内

歴史地震研究会 行事委員会 吉田律人・馬場俊孝・松浦律子

FAX番号 03-3295-1507

5. 各種お知らせ・資料

『歴史地震』原稿募集のお知らせ

会誌『歴史地震』では、通年、投稿を受け付けておりますが、2013年7月発行予定の次号(第28号)に掲載希望の方は、2012年12月14日までにご投稿をお願いいたします。

1. 募集原稿の内容

『歴史地震』は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し、記事の種別として、論説、資料、講演要旨、報告、紹介を取り扱います。編集出版委員会では、第28号を次の記事を中心に構成する方針です。

- (1) 2012年9月の第29回歴史地震研究会での発表内容に関連する記事
- (2) 昨年までの研究会で発表された内容、あるいはそのほかのオリジナルな内容に関する記事
- (3) 2012年9月の第29回歴史地震研究会の講演要旨集に掲載された講演要旨。ただし、(1)の記事として掲載されるものを除く。

これらのうち、(1)(2)の投稿をお待ちしています。

2. 編集体制と編集方針

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております。

1. 編集出版委員会で編集作業を進めます。
2. 論説および資料については、査読制を取り入れています。少なくとも1名の査読者が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし、不備を指摘・訂正していただきます。
3. 原稿を作成する標準的な体裁「『歴史地震』の標準形式」を定めています。この形式に従ったWordファイルが歴史地震研究会のウェブサイト (<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>) からダウンロードできますので、このWordファイルを書き換える形で原稿を準備されることをお奨めします。
4. 電子ファイルでの投稿を奨励します。少なくとも本文は電子ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと、編集作業が効率的に行えますので、ご協力をお願いいたします。
5. 「投稿シート」(次頁に記載)を大幅にリニューアルしましたので、必ずこのシートに必要事項をご記入のうえ、このシートとともにご投稿ください。「投稿シート」は上記ウェブサイトからもダウンロードできます。
6. 最終原稿は、印刷物としての『歴史地震』のほか、PDF版として歴史地震研究会のウェブサイトで一般に公開します。原則として、印刷物はモノクロで刊行します。
7. その他詳細は、編集規定をご覧ください。

3. 投稿先

・電子メールでご投稿の場合: histeq@erc.adeq.or.jp

添付ファイルが5MB以上の大きさになる場合には、宅ふぁいる便などのファイルアップロードサイトをご利用になるか、CDなどに焼いてご郵送ください。

1週間以上経過しても受領の連絡がない場合には、ファイルを受け取ることができていない可能性がありますので、お手数ですが、上記アドレスまで再度お問い合わせください。

・郵送でご投稿の場合: 〒263-8522

千葉県稲毛区弥生町1-33 千葉大学理学部地球科学科 金田 平太郎 宛

・ご投稿の際には、忘れずに「投稿シート」もご提出ください。

『歴史地震』投稿シート

ver.201207

< 基本情報 >

記事の種類	論説・資料・報告・紹介		論説および資料の場合は、査読の対象となります。
記事タイトル			
著者			
連絡責任者	氏名		
	所属		
	郵便番号	〒	
	住所		
	電話番号		
	電子メールアドレス		

< 質問・チェック事項 >

記事について

(1) 記事の内容は過去の歴史地震研究会で発表した内容ですか？	はい・いいえ
・「はい」の場合、発表年および開催場所をご記入ください	
発表済の場合は、編集出版委員会の判断で、通常2名以上の査読者を1名とすることができます(論説、資料の場合)。	

体裁・形式について

(2) 原稿は、歴史地震研究会ウェブサイトからダウンロードした標準形式のWordファイルを書き換えて作成したものですか？	はい・いいえ
<p>・「いいえ」の場合、以下の標準形式に従っていることを十分に確認してください。</p> <p>A4 サイズ、左右の余白各2cm、上下の余白各2.5cm</p> <p>フォントは和文が明朝体、英文がTimes</p> <p>文字サイズは、和文タイトル16pt、英文タイトル12pt、所属・著者名10.5pt、英文要旨10.5pt。</p> <p>著者の連絡先は和文の所属に脚注として加える。</p> <p>キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入する。</p> <p>キーワードの下でセクションを切り替え、本文は2段組とする。段の横幅は8cm、段の間は7mm程度、1行22文字、1ページ45行とする。</p> <p>本文の文字サイズはすべて10.5pt。</p>	

(3) 記事の種類が「論説」あるいは「資料」の場合、英文の表題、英文の著者名・所属、英文要旨(200語程度)、英文キーワードを備えていますか？	はい・いいえ
(4) 句読点は「,」と「.」で統一されていますか？ されていない場合は検索・置換ツールを使って統一してください	はい・いいえ
(5) 本文中で和暦と西暦が混同されるおそれはないですか？ 歴史地震研究会では、混同を避けるため、和暦には漢数字(宝永四年十月四日など)、西暦にはアラビア数字(1707年10月28日など)を使うことを推奨しています。	はい・いいえ
(6) 西暦1582年以前の西暦は(グレゴリオ暦ではなく)ユリウス暦を用いていますか？	はい・いいえ
・「いいえ」の場合、使っている暦の種類が明記されていますか？	はい・いいえ

図・写真について

(7) 既公表の文献(自分で公表したものも含む)や機関・個人が所蔵している史料から転載した図や写真はありますか？	はい・いいえ
・「はい」の場合、出版社・学会や機関、個人に転載許可をとっていますか？	はい・いいえ
(8) 製本(印刷)版でカラー図・写真の掲載を希望しますか？	はい・検討中・いいえ
・「はい」もしくは「検討中」の場合、希望する図・写真の番号をご記入ください	
<p>カラー図を希望された場合、本文中にはモノクロの図が掲載され、そのカラー版が口絵として巻頭に再掲される格好となります。なお、カラー頁料金(例年、1頁あたり22000円程度)が発生します。</p> <p>歴史地震研究会ウェブサイトで開催される電子版(PDF版)では、希望の有無に関わらず、フルカラーとなります。</p>	
(9) カラー掲載しない図について、モノクロ印刷で必要な情報が判読・識別可能ですか？	はい・いいえ

歴史地震研究会会誌編集規定 (2007年10月4日制定, 2009年7月23日一部改定)

総則

1. 本規定は、歴史地震研究会(以下、本会)の会誌の投稿、査読、編集および出版に関する手順と規則を定めるものである。
2. 本会が発行する会誌の名称は、『歴史地震』とする。英文では、Historical Earthquakes と表記する。
3. 本会の会員は、会誌に原稿を随時投稿できる。また、会員以外からの投稿も適宜受け付ける。
4. 編集出版委員会は、会員または会員以外に記事の執筆を依頼することができる。
5. 本誌の質を高めることを目的として、査読制を採用する。査読の対象とする記事の種別、および査読の手順と基準は、細則に定める。
6. 会誌の記事の投稿から出版までの順序は次のとおりとし、詳細は細則に定める。
 - (1) 投稿者は、編集出版委員会に原稿を提出する。
 - (2) 編集出版委員会は、投稿された原稿を速やかに受け付け、受付日を記録する。また、原稿毎に編集出版委員会の構成員のうちから編集担当者を決定する。
 - (3) 編集担当者は、投稿された原稿を細則に定める基準に従って点検し、必要と判断した場合は、著者に修正を要求することができる。
 - (4) 査読の対象となる原稿は、以下の査読手順を経ることとする。
 - a) 編集出版委員会は、会員または会員以外から査読者を選定する。
 - b) 査読者は、細則に定める基準に従って原稿を点検し、編集出版委員会に意見を提出する。
 - c) 編集出版委員会は、投稿された論文の掲載の採否を、査読者の意見に基づいて決定する。
 - (5) 編集出版委員会は、掲載を可とした原稿について、受理日を記録する。
 - (6) 投稿者は、原稿を校正および清書した後、最終原稿を編集出版委員会に提出する。
7. 各事業年度の会誌の発行号数および部数は、総会が決議した事業計画に沿う。また、会誌に掲載した記事は、本会のホームページで公開する。
8. 会誌に掲載された記事の著作権は、本会に帰属する。

細則

(原稿の種別)

1. 会誌は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成する。記事の種別は、論説・資料、講演要旨、報告・紹介、研究会記事とする。
2. 記事の種別は、次の基準で分類する。
 - (1) 論説・資料は、次のいずれかであり、査読の対象となる。
 - a) 著者による未発表の新知見を含む研究成果を記した論文
 - b) データ・文献・史資料を系統的に収集・整理・分類し、研究に寄与する価値を有する論文
 - (2) 講演要旨は、直近の研究発表会または講演会で発表済みの研究成果の要旨である。
 - (3) 報告・紹介は、研究集会の報告、研究プロジェクトの紹介、著書の紹介など、新しい情報に関する短い記事である。
 - (4) 研究会記事は、本会の活動に関する報告または連絡の記事である。原則として、幹事会または各委員会が執筆する。
3. 記事の刷り上り時の分量は A4 判で、論説・資料は 3～20 頁、講演要旨は 1～2 頁、報告・紹介は 4 頁以下を標準とする。ただし、編集出版委員会が特に必要と認めた場合は、この限りではない。
4. 記事の構成は、次のとおりとする。
 - (1) 論説・資料および報告・紹介は、表題(和文と英文)、著者・所属(和文と英文)、要旨(英文 200 語程度)・キーワード(英文 5 語程度)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、報告・紹介では、要旨とキーワードを省くことができる。論説には対象とした地震名を引用文献の前に明記する。

(2) 講演要旨は、表題(和文)、著者・所属(和文)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、英文で表題、著書・所属を加えてもよい。

(投稿者)

5. 投稿者は、記事の種別、著者の連絡先を明記して、郵送または電子メールで編集出版委員会宛に原稿 1 部を提出する。A4 判の用紙で標準書式になって原稿を作成することが推奨される。
6. 依頼により原稿を執筆する著者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
7. 投稿者は、編集出版委員会から査読者の意見と編集者の判定を受け取った後、原稿を点検し、必要な修正を加えた修正稿を編集出版委員会に提出する。
8. 投稿者と査読者の意見が対立した場合は、投稿者は編集担当者に対して、編集出版委員会が別の査読者を選定して意見を求めるよう請求できる。
9. 投稿者は、編集出版委員会からの受理の通知後、高品質に印刷した最終稿および電子原稿をすみやかに編集担当者に提出する。電子原稿は、編集出版委員会が定める標準書式に従って作成することが推奨される。
10. 投稿者は、付則に定める掲載料を支払わなければならない。

(編集担当者)

11. 編集担当者は、投稿された原稿を以下の点について判定する。
 - (1) 明白な誤りがないか
 - (2) 内容が会誌の対象の範囲に合致するか
 - (3) 記事の種別が適切か
12. 論説・資料として投稿された原稿について、編集担当者は、細則 11 項による編集担当者自らの判定と、査読者の意見を基に、原稿の取り扱いを次の中から決定する。
 - a) 掲載可
 - b) 修正を条件に掲載可
 - c) 修正後に再査読し、その後に再度判定
 - d) 編集出版委員会で協議して取り扱いを判定
 - e) 掲載不可
 - f) 原稿種別の変更ただし、原稿の不備が改善しうると期待できる場合は b)、原稿種別を変更すべき場合は b)、原稿に相当大幅な修正を要する場合は c)、複数の査読者の意見が大きく異なる場合は d)、原稿に修正困難な明白な誤りがある場合は e)、細則 1 項に定める会誌の対象の範囲に合致しない場合には e)、原稿種別を変更して掲載する場合には f)、と判定する。但し、f)の場合には原稿の文末に編者注を付け、編集者により変更に至った経緯を明記する。

13. 講演要旨および報告・紹介の編集担当者は、必要に応じて投稿者に修正を求めることができる。

(査読者)

14. 査読者は、査読を通じて会誌の質を高めるよう努める。
15. 査読者数は、論説・資料は 2 名以上とする。ただし、直近の研究発表会または講演会で既発表の内容に基づく原稿については、編集出版委員会の判断で、査読者数を 1 名とすることができる。編集出版委員会が査読者を人選し、依頼する。
16. 査読手続きに必要な郵送料は本会が負担する。また、会員以外の査読者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
17. 査読を依頼され、専門分野などの理由で査読が不可能と判断した場合は、すみやかに、編集出版委員長または編集担当者に通知することとする。また、査読者は、専門分野などの理由で必要な場合、編集担当者を通じて、査読者の追加あるいは会員による助言を要求できる。
18. 査読者は、内容に明白な誤りがある場合、表現が不適切な場合、論理に問題がある場合、原稿の種別が適切でない場合のいずれかに該当する原稿に対しては、改善意見を述べることとする。また、論説・資料につい

ては、細則 2 の要件を満たしているか否かを判定し、編集担当者に対して、原稿の取り扱いについての意見を示すこととする。

(その他)

19. 編集出版委員会は、特定のテーマを設定して会誌の原稿を募集し、会誌に特集を編むことができる。
20. 編集出版委員会は、投稿者の参考のために原稿の標準書式を、査読者の参考のために原稿点検の標準チェックシートを、それぞれ作成する。

付則

1. 掲載料は次のとおりとする

(1) 連絡担当著者が会員の場合

全頁モノクロであり、かつ細則 3 に定める標準の頁数以内であれば、掲載料は無料とする。カラーの頁を含む場合は、モノクロ頁との印刷経費の差額に相当する実費をカラー頁分が掲載料として課される。また、標準の頁数を超過した場合は、会誌発行経費の頁単価に、超過分の頁数をかけた額が掲載料として課される。

(2) 連絡担当著者が非会員の場合

会誌発行経費の頁単価に、印刷時の頁数をかけた額が掲載料として課される。カラーの頁については、会員と同じとする。

(3) 依頼による執筆の場合は、前二項によらず、掲載料は無料とする。

2. 本規定は、2010 年発行の『歴史地震』第 25 号より適用する。

歴代研究会開催地一覧

これまでの開催地と、特集した地震をまとめた。なお 2013 年は候補予定である。

回	年	場所	特集地震	回	年	場所	特集地震
1	1984	東大地震研		16	1999	伊賀上野	伊賀上野
2	1985	東大地震研		17	2000	長野	善光寺
3	1986	東大地震研		18	2001	象潟	象潟
4	1987	東大地震研		19	2002	立山	飛越
5	1988	静岡		20	2003	佐倉・九十九里	元禄
6	1989	東大地震研		21	2004	鳥羽	安政東海
7	1990	大阪		22	2005	江戸東京博物館	安政江戸
8	1991	徳島		23	2006	大船渡	明治・昭和三陸・チリ津波
9	1992	東大地震研		24	2007	下田	安政東海
10	1993	江戸東京博物館		25	2008	つくば	関東
11	1994	須崎	安政南海	26	2009	大津	姉川・元暦
12	1995	田老町	明治・昭和三陸	27	2010	東大地震研	
13	1996	田辺	昭和南海	28	2011	新潟	名立崩れ
14	1997	島原	島原	29	2012	横浜	関東
15	1998	浜名湖	明応東海	30	2013	秋田	

歴史地震研究会への入会手続きのご案内

歴史地震研究会に入会をご希望の方は、次頁の申請書に必要事項を記入して、係(諸井幹事)までお送り下さい。

送り先:(株) 小堀鐸二研究所 諸井孝文 (当会財政委員長)

〒107-8502 東京都港区赤坂 6-5-30

FAX:03-5561-2431 電子メール: moroi@kajima.com

歴史地震研究会入会申請書

歴史地震研究会会長 武村 雅之 殿
歴史地震研究会への入会を申請いたします

年 月 日

ふりがな 氏名		関連分野	
生年月日	年 月 日	性別	男 ・ 女
所属機関	名称・部署		
	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒 TEL: FAX:	
自宅	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒 TEL: FAX:	

----- きりとり -----

- 注 1: 申請書に記された情報は歴史地震研究会の活動以外の目的には使用しません。
 注 2: 会員に配布される名簿に記載されることを希望しない項目は()内に記入してください。
 注 3: 会誌送付先を太字または下線付きなどで強調して記してください。

名簿欄記入例 (自宅情報は非開示, 所属先に会誌送付希望の場合)

ふりがな 氏名	じしん さぶろう 地震 三郎	関連分野	災害科学
生年月日	19〇〇年 〇〇月 〇〇日	性別	(男) ・ 女
所属機関	名称・部署	歴史地震研究所・災害研究課	
	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒000-0001 東京都弥生区文京 1-1-1 TEL: 00-0000-0001 FAX: 00-0000-0002 〇〇@〇〇.〇〇	
(自宅)	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒000-0001 東京都弥生区文京 マンション耐震 1-1 TEL: 00-0000-0003 FAX: 〇〇〇@〇〇.net.jp	

歴史地震研究会会則

(2000年10月1日制定, 2002年9月7日改定, 2006年9月16日改正, 2008年9月14日改正)

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、『歴史地震研究会』(The Society of Historical Earthquake Studies)という。

(目的)

第2条 本会は、歴史上の地震ならびにそれに関連する諸現象・諸問題に関して、理学、工学、人文科学、社会科学、および防災科学の研究を促進し、相互の情報交換を行うとともに、一般市民を交えた知識の共有と相互理解をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究成果発表会および講演会
- (2) 会誌の刊行
- (3) 広報活動
- (4) その他、必要な事業

(事務所)

第4条 本会は、事務所を東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所内に置く。

(事業年度)

第5条 本会の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

(会則改正)

第6条 この会則は、総会において、表決権を持つ出席者の3分の2以上の賛成により、改めることができる。

(規定)

第7条 この会則の実行に必要な規定は、幹事会の議を経て別に定める。

第2章 会員

(会員)

第8条 本会は次に定める会員からなる。

(1) 会員 本会の目的に賛同する個人

第9条 会員は付則に定める年会費を、各年度始めに納入しなければならない。

(会員の特典)

第10条 遅滞なく会費を納めている会員は、次の特典を有する。

- (1) 会誌の配布を受けること
- (2) 研究発表会において、研究成果を発表すること
- (3) 会誌へ論文などを投稿すること
- (4) 総会に出席し、表決権を行使すること
- (5) 総会または幹事会に対して議論すべき事項を提案すること

(入会)

第11条 会員になろうとするものは、所定の申し込み書を会長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

(退会)

第12条 退会しようとする会員は、会長に退会届を提出しなければならない。この場合、未納会費がある時は、それを全納しなければならない。

(入退会時期)

第13条 会員の入退会は、事業年度を単位とする。

(除名)

第14条 本会の会員として著しく不適切な行為のあったと判断されたものは、幹事会の議を経て、会長はこれを除名することができる。

第3章 役員

(役員)

第15条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 幹事 5名
- (4) 監査役 2名

第16条 会長は会員の中から総会で選出する。

- 2 副会長および幹事は会長が会員の中から委嘱する。
- 3 監査役は会員の中から総会で選出する。
4. 会長および監査役の選出手続きは付則に定める。

第17条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長不在時には会長を代行する。
- 3 幹事は幹事会を構成し、かつ総務、財政、行事、広報、編集出版の各委員長をつとめる。
- 4 監査役は本会の業務の執行および会計を監査する。
- 5 各委員会の委員は委員長が選任し会長が委嘱する。

第4章 総会および幹事会

(総会の招集)

第18条 総会は年1回、会長が招集する。総会は会員の10分の1の実出席を要する。委任状は発行しない。

(総会の決議事項)

第19条 総会では次のことを行う。

- (1) 次期会長の選出
- (2) 次期監査役の選出
- (3) 前年度の事業経過および決算報告と、その承認
- (4) 次年度の事業計画および予算案の提案と、その承認
- (5) 会則の改正
- (6) その他

(幹事会)

第20条 幹事会は会長が招集し年2回以上行う。議長は会長が行う。その他幹事からの提案で、臨時に開くことができる。幹事会は幹事の2/3以上の参加をもって成立し、決定は出席者の過半数をもって行う。幹事会は代理出席を認める。

第5章 会計

(資産)

第21条 本会の事業は会費、寄付金、事業に伴う収入および雑収入によって行う。

(事業計画・予算案)

第22条 本会の事業計画およびこれに伴う予算は、会長および財政委員長がこれを幹事会の議を経て作成し、総会の議決にもとづき執行する。

(事業計画・収支決算の監査)

第23条 本会の事業報告および収支決算は、会長および財政委員長がこれを作成し、監査役の監査を経て幹

事会および総会において承認を受けなければならない。

付 則

第 1 条 第 10 条による会費は、次の通りとする。

会員 3000 円

第 2 条 第 16 条による会長選出手続 会長候補者は 3 名以上の推薦者をもって立候補し、総会の 1 週間前までに幹事会に届け出る。

第 3 条 第 16 条による監査役選出手続 監査役は 3 名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される。推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出る。

第 4 条 本会則は、2008 年 9 月 15 日から施行する。

組 織

総務委員会

文書の受付、配布、会誌『歴史地震』の発送

歴史地震研究発表会の開催に関する事項

財政委員会

予算の編成、決算に関する事項および研究会の財政に関する企画

普通会员の入退会、除籍に関する事項および名簿に関する事項

行事委員会

歴史地震研究発表会の開催に関する事項および他学会協賛に関する事項

広報委員会

歴史地震研究発表会および会誌『歴史地震』の広報に関する事項

編集出版委員会

会誌『歴史地震』の編集出版に関する事項

歴史地震研究会役員および委員名簿

役員名簿

会長 武村雅之

副会長 松浦律子

幹事 小松原琢、諸井孝文、吉田律人、林 能成、金田平太郎

監査役 永井九一、中村 操

委員名簿

総務委員会 委員長 小松原琢

財政委員会 委員長 諸井孝文

行事委員会 委員長 吉田律人 委員 馬場俊孝、松浦律子

広報委員会 委員長 林 能成

編集出版委員会 委員長 金田平太郎 委員 白石睦弥、行谷佑一

